

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立自然史博物館
所在地	富岡市上黒岩1674-1
所管部局・課	生活文化スポーツ部 文化振興課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

社会教育法、博物館法、群馬県立自然史博物館の設置及び管理に関する条例

2 施設の役割

<p>(1) 設置目的 自然の生い立ちや郷土の豊かな自然環境に関する県民の理解を深め、併せて県民の文化活動を援助し、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する。</p> <p>(2) 設置当初の状況 平成8年4月に社会教育施設として設置した。</p> <p>(3) 施設を取り巻く現状 全国的に入館者数が伸び悩んでいる中で、年間の入館者数は、開館以来、概ね22万人(観覧者数16万人、教育普及事業参加者6万人)前後で推移して来たが、直近5年間(平成25年度～29年度)の平均では25万人(観覧者数19万人、教育普及事業参加者6万人)を超え、開館20周年を迎えた平成28年度には過去最高の279,248人(観覧者数212,022人、教育普及事業参加者67,226人)の入館者があった。 本施設は、富岡市立もみじ平総合公園内に位置し、公園内には市立の美術館、体育館等が設置されている。 また、本施設には、附帯ホール(かぶら文化ホール)が併設されており、平成18年4月から指定管理者制度を導入し、富岡市が指定管理者となっている。</p>
--

3 施設の概要

設置年月日	平成8年4月1日(開館10月22日)
敷地面積(所有者)	18120.8平方メートル(富岡市)
主な施設(床面積、階数等)	延べ床面積12122.38平方メートル、地上2階一部3階 地下1階建
建設費	10,509,920千円(内展示工事費2,350,984千円) (かぶら文化ホールを含む)
備考	

◇入園料・利用料等

(円) ◇利用時間(休館日)

区分	金額	9:30～17:00(入館は16:30まで) 月曜休館(祝日の場合はその翌日) 年末元日
一般	510、団体410	
大学生・高校生	300、団体240	
中学生以下	無料	
障害者・介護者	無料	

4 施設における実施事業

- 博物館展示
 - 常設展示、企画展示
- 教育普及事業
 - ・企画展・・・記念講演会、ワークショップ
 - ・子ども向け・・・紙芝居、ビデオ上映会、サイエンス・サタデー、ミュージアムスクール、博物館探検隊、高校生学芸員
 - ・大人向け・・・自然史講座、大人の自然史倶楽部
 - ・その他・・・ファミリー自然観察会、天体観望会、バックヤード(収蔵庫・研究室等)ツアー、移動博物館、ミュージアムナイトツアー、博物館の日、みんなで調べる「群馬のツバメ」
 - ・学校向け・・・館内授業、出前授業、教育用資料貸出、博物館実習、職場体験、教員のための博物館の日
- 収集・保管
- 調査研究

5 管理運営コストの状況

(千円)

区 分	30年度(当初予算額)	29年度(決算額)	28年度(決算額)	27年度(決算額)	26年度(決算額)
歳 入 (1)	51,964	56,441	65,519	60,683	45,264
使用料	46,890	55,163	61,664	46,572	40,015
雑入(文化振興課)	5,074	1,278	4,855	14,111	5,249
歳 出 (2)	473,326	474,714	479,148	476,703	435,676
常勤職員	155,670	157,195	148,925	148,559	149,718
非常勤職員	17,193	20,449	20,430	20,246	20,129
管理運営費	213,144	213,562	230,619	236,178	199,496
事業費	87,319	83,508	79,174	71,720	66,333
歳入・歳出の差額(1)-(2)	▲ 421,362	▲ 418,273	▲ 413,629	▲ 416,020	▲ 390,412
歳入・歳出の主な増減理由	H28は20周年記念企画展で歳入、歳出とも増加。 H29から常勤職員1名増員。				

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
常勤職員	18	18	17	17	17
非常勤職員	8	9	9	9	9
合 計	26	27	26	26	26

7 施設利用の状況

区 分	30年度※	29年度	28年度	27年度	26年度
年間利用者総数(人)	178,459	268,962	279,248	248,435	223,515
有料利用者数(人)	63,139	89,778	89,551	77,620	66,522
無料利用者数(人)	115,320	179,184	189,697	170,815	156,993
目標利用者数(人)	250,000	235,000	245,000	230,000	230,000
施設稼働率(%)	—	—	—	—	—
稼働率対象施設(設備)	—				
利用者の主な増減理由	H28は20周年記念企画展で入館者数が増加。 H29は夏の企画展の入館者が多く、前年度からのリピーターも増加したと思われる。 H30は年度途中(9月まで)実績で、過去最高の入館者数である。				

※ 見込数又は途中実績を記入

8 必要性及び管理運営方法についての方向性

区分	検討結果・理由等
施設の必要性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県の施設としてこのまま存続 <input type="checkbox"/> 県の施設として事業規模等を縮小して存続 <input type="checkbox"/> 市町村に移管・譲渡 <input type="checkbox"/> 民営化・民間譲渡 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 公共施設のあり方検討委員会(H21.10.23最終報告書)において、「本県の自然系の学術文化に係る研究・社会教育の中心施設として、数多くの県民に利用されている。また、自然環境への理解を深め、自然に親しみ学習する施設として、環境保護への取組が求められている時代ニーズにも合致しており、その設置目的は、今日においても失われておらず、教育的効果も高い施設と考える。施設の今後のあり方としては、継続とすべきである。本施設は、県内の約半数の小学校に利用されるとともに、多くの県外の小学校にも利用されており、教育普及や調査研究にも力を入れ、実績を上げている。また、施設の展示内容も充実しており、観光面からも本県を代表する施設になり得ると考える。」との答申を受けている。 </p> <p> 当館では、地域に根ざした博物館として群馬の土地の生い立ちと自然に視点を置きながら、人類の進化や環境に関してわかりやすく特色ある展示、魅力ある企画展の開催を行ってきた。また、各種講演会や観察会・イベントに加え、バックヤードツアーや自然史博物館探検隊、サイエンス・サタデー(地学や生物に関する観察、物作り体験)等の、参加・体験型の事業を展開し、来館者が楽しみながら新しい発見ができるよう工夫を凝らしている。さらに、地域や教育機関と連携した出前講座や高校生学芸員、インターンシップの受入れなど生涯教育や人材育成にも積極的に取り組んでいる。 </p> <p> 広報活動においても、県内全小学校児童に企画展チラシの配布、大型家電販売店の大型ビジョンで企画展プロモーションビデオの放映、世界遺産富岡製糸場やその他県内民間企業や観光施設等と連携し、チラシの配布等を積極的に行い、入館者数の増加に努めている。その結果、開館20周年の平成28年度には開館以来最高の279,248人の入館者があった。平成29年度においても、魅力ある企画展の開催や積極的な広報活動の結果、平成28年度に次ぐ過去2位の268,962人の入館者となった。講演会や体験活動に参加した方からのアンケートでは、ほぼ100%の方から「良かった」「満足した」等の回答を得ている。以上のことから、現在、学習施設として、また、観光面からも本県を代表する施設となっている。 </p>
指定管理者制度	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 公共施設のあり方検討委員会(H21.10.23最終報告書)において、「県直営による管理運営が適当であると考えますが、民間のノウハウを活用する観点から、指定管理者制度について、他県での導入、活用状況など情報収集に努められたい。」との答申を受けている。 </p> <p> 建物としての博物館の管理運営と学芸員を中心として行う調査研究活動や教育普及活動を分けて、前者のみを指定管理者に委託するか、教育文化事業団のように公益的な観点から文化行政を行うのに適した機関に委託する場合は可能と思われる。いずれにしても短期間の指定管理では、専門的職員の育成は難しく、他からの信頼を得るには相当の期間で指定する必要があると考える。 </p>

■ 見直しの検討が必要なものがある □ 当面見直しの必要はない

1 現状

開館後22年経過し、施設の老朽化や展示品の更新、収蔵庫の増設等各種問題に直面している。

<施設の老朽化>

現在までのところ大規模な改修は予定されておらず、エントランスホールや雨漏りの修繕等、その都度行っているところである。

→【ESCO事業による機器更新】

- ・施設(空調機器)の老朽化を契機に、省エネ・光熱水費の削減・機械設備維持管理費の平準化などの効果の見込めるESCO事業(民間事業者の専門的知識による機器更新と維持管理)を実施。

<展示品の老朽化>

常設展示についても、展示品の老朽化や、新しい知見に基づく解説等、随時修正等を加え対応している。

<収蔵庫空きスペース不足>

収蔵庫については、館内の収蔵庫はほぼ満杯であり、収蔵庫の整理整頓はもちろんのこと、収蔵品の管理・整理について徹底していく。

2 博物館基本構想の策定

開館20周年を迎えた平成28年に、当館が取り組むべき今後10年間の指針を基本構想としてまとめ、運営方針や運営方式、評価等について検討し、今後の業務指針とした。

◎運営方針

(1) 継続性と創造性を担う主体的な運営

- ・資料収集保管や調査研究など、長期にわたる博物館事業の継続性

(2) 県民目線の運営

- ・県民活動、連携協働拠点として、県民や研究者などが主体的に参画し、協働できるよう博物館への意見や要望、改善策などを博物館の運営に反映する。
- ・外部の第三者による博物館評価委員会の継続。

(3) 多様な機関や個人との連携

- ・大学等や研究施設、他の博物館や市民研究者など、多様な団体、個人との連携を進める。
- ・友の会の発展や大学等とのパートナーシップ、企業等との参画・協賛のほか、ボランティアの育成を進め、地域に愛され、地域に根づいた博物館を目指す。

◎運営方法

- ・博物館の地道で長期にわたる継続的な活動を担保するとともに、組織が活性化し、職員の創造性を発揮できる体制づくりに努める。
- ・館長及び各係(総務・教育普及・学芸)が果たすべき責務を真摯に率先して行い、各種調査研究、教育普及活動や効率的で高い安定した館運営を行う。

◎評価等

- ・博物館運営委員会、内部評価委員会、外部評価委員会を設置し、館運営にあたり様々な協議・検討を行い、館運営に反映させ、自己変革する博物館をめざす。

業務等の見直し